

【校訓】 かしこく なかよく すこやかに

1 はじめに

学校経営は、校長のマネジメントの下、「学校教育目標の実現を目指し、全教職員が組織的な教育活動を展開し、子どもたちを取り巻く環境や、能力等実態を的確に把握する中で現状にとどまることなく、更なる向上・前進を目指して行う組織的・創造的営み」である。

学校教育目標の具現化に向けては、学習指導要領、山梨県教育大綱、山梨県教育振興基本計画、山梨県学校教育指導指針、さらには笛吹市学校教育ビジョンを踏まえ、基本理念である「生きる力」を育む学校教育を推進するために、特色ある教育課程を編成し、「確かな学力の育成」「豊かな心の教育」「健やかな体の育成」の知・徳・体のバランスのとれた児童の育成を目指して、全教職員が常に学校教育目標を念頭におきながら、日々の教育活動を行っていくことが重要である。



2 学校教育目標

「確かな学力、豊かな心、健やかな体をもつ子どもの育成」

——【目指す学校像】——

- ・しっとりと落ち着いた学校
- ・花と緑に囲まれた安全で安らぎのある学校
- ・子どもを勇気づける学校

——【目指す子ども像】——

- ・将来の自立に向け、生きてはたらく力の素地を身につけた子ども
- ・豊かな感性と思いやりの心をもつ子ども
- ・生命を大切にし、心身ともに健康で明るい子ども
- ・夢や目標をもち、その実現に向かって努力する子ども

——【目指す教師像】——

- ・子どもを理解し、子どもに愛をつくる教師
- ・教育的瞬間を見逃さず、子どもと共に喜び合える教師
- ・他と協調し、専門性や人間性を高め合える教師

3 学校経営の基本方針

■ 【かしこく】確かな学力を身につけた子どもの育成

これからの時代に求められる子どもたちに育成すべき資質能力である「生きて働く知識・技能の習得」、「未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力等の育成」、「学びを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力・人間性等の涵養」を、教育課程全体を通じて推進するとともに、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実し、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を図る。

■ 【なかよく】豊かな感性と思いやりの心をもつ子どもの育成

教育活動全体を通じて行う道徳教育と、その要としての「特別の教科 道徳」の役割を認識し、道徳的価値に関する知識・理解だけでなく、全人格にかかわる道徳性の育成に努め、子どもたちの確かな人権感覚や自他を尊重する態度の育成を図る。

豊かな心の育成を目指し、教育活動全体を通じて、安心して生活できる教室環境や協働的・創造的な学習環境づくりとともに、児童一人一人に対応した切れ目のない組織的な支援に努める。

■ 【すこやかに】生命を尊重し、進んで心身を鍛える子どもの育成

健康で安全な生活とスポーツライフの実現を目指し、食育、体力の向上に関する指導、安全に関する指導、心身の健康保持増進に関する指導を相互に関連させながら教育活動全体を通じて行うことにより、自ら運動を実践する態度を育成するとともに望ましい生活習慣の形成に努め、生涯を通じて健康・安全で活力ある生活を送るための基礎を培う。

4 具体的目標と努力点 ◎は今年度の重点

(1) 社会の変化に対応し、「生きてはたらく力」を育む教育課程の編成と実施に努める。

- ◎知育・徳育・体育のバランスの取れた教育を通して、社会や個人の生活をよりよくしていくために、学んだことを実生活に幅広く生かしていく力を育成する。
- 学校教育目標や学校経営の基本方針を家庭や地域と共有するとともに、地域や学校、児童の実態に即した、活力に満ちた特色ある学校づくりに努める。
- ◎学校教育目標の実現に必要な資質・能力を明確化し、その育成に必要な教育内容を教科横断的な視点で組み立て、授業改善、校内研究を通して評価・改善を図り、教育活動の質の向上に努める。⇒【校内研究主題】
- 地域人材、外部講師等の積極的な活用を図り、ESD（持続可能な開発のための教育）・郷土学習・外国語教育・国際理解教育・安全教育（生活・交通・災害）の推進に努める。
- ◎障害や特性に応じて作成される個別の指導計画に基づいて行われた学習の状況や結果を適切に評価し、教育課程の評価と改善につなげる。

(2) 自ら学び・自ら考える力を育てる学習指導に努める。

- ◎学習指導要領の趣旨を踏まえた、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善及び評価に取り組み、新しい時代に必要となる資質・能力の育成に努める。
- ◎各教科等の目標を実現するとともに、児童の発達段階を考慮しながら情報活用能力を育成できるよう、1人1台端末等のICT環境を日常的かつ効果的に活用した授業の充実を図る。(笛吹市GIGAスクール運用ガイドライン)
- 児童が自ら学習課題や学習活動を選択する機会を設けるなど、児童の興味・関心を生かした自主的、自発的な学習が促される授業づくりを行う。
- 児童の学習状況に応じた個別指導の充実を図り、基礎的・基本的な学習内容の定着とそれらを活用して課題を解決する力の育成に努める。⇒【かしの木タイム、少人数指導、放課後子ども教室連携】
- ◎学力調査の結果分析を通して、一人一人の学習のつまずきの解消、授業における指導方法や学習環境の改善を図る。⇒【全国学力学習状況調査結果等の活用】
- 学校図書館の計画的・効果的な活用を図り、朝の読書、読み聞かせ、家読等、読書活動の積極的な推進し、児童の主体的、意欲的な学習活動や読書活動の充実に努めるとともに、児童の読書習慣の形成、国語力の向上に努める。

(3) 豊かな人間性や社会性の育成を目指し、心の教育の充実に努める。

- ◎楽しく学び合える魅力ある学校づくりを進め、いじめ・不登校の未然防止に努めるとともに、児童の実態や家庭環境、友人関係の変化を捉え、ケース会議等を通してSC、SSW、教職員、関係機関等と連携・協働し、組織的な支援体制を構築する。
- ◎道徳教育の方針・重点、全体計画に基づき、全教職員が連携・協力し、学校の教育活動全体を通じて道徳教育を推進する。
- 自分の大切さや他の人の大切さを認めるために求められる人権感覚を涵養し、実践力や行動力を育成する。⇒【命の授業、弁護士出前授業、赤ちゃん抱っこ体験等】
- ◎子どもの人格を尊重し、子どもを勇気づける声かけ、受容と共感的理解に基づくきめ細かな生徒指導に徹する。
- 「あいさつ、聞き方、言葉遣い」、「くつそろえ」の徹底を図り、基本的な生活習慣、学習習慣の確立とともに、規範意識や責任感、自分を振り返る態度の育成を図る。
- 学級力向上プロジェクト、異年齢集団での系列活動等、課題解決に向けた子どもたちの主体的な取組により、互いに認め合い、励まし合い、高め合う集団づくりに努める。
- キャリア・パスポートを活用し、年度初めや学期末、年度末など節目の時期に目標設定や振り返りの場を設けるとともに、教師等が対話的に関わることで児童のキャリア形成を促し、学年・校種間の学びを繋ぐ系統的な取組を実践する。
- ◎情報モラルに関する指導(携帯電話・スマートフォンの取り扱い、インターネット上のいじめ、人権侵害への理解)を、保護者と共に展開していく。

(4) 健やかな体の育成を目指し、体力づくり、健康・安全教育に努める。

- ◎望ましい生活習慣の形成に向けて、子どもが自らの生活を見直し、改善していこうとする態度を育てるとともに、家庭への啓発活動を進める。⇒【生活チェックカード】
- 教育活動全体を通じて体験的活動の充実を図り、何事にも全力で取り組み、最後までやりぬく心、嫌なことから逃げない、乗り越えていくたくましさを育成する。
- 新型コロナ感染拡大前の運動状況に近づけるため、体育授業における運動強度や体育的活動における実施内容の工夫、休み時間における運動遊びの奨励に取り組む。
- ◎体力テストの結果を分析し、体力（持久力・投力）の向上に向け、異年齢集団による外遊び等の取組を推進する。⇒【健康・体力づくり一校一実践運動】
- ◎給食センターとの連携により、食に関する指導の推進及び充実、食物アレルギーへの対応の徹底を図る。
- 安全点検、安全な遊具の使い方の徹底、交通安全指導（自転車ヘルメット着用の推進）、危険予測及び回避能力の育成等、安全教育の充実に努める。
- 日常生活での感染予防の実践と習慣化を図り、感染防止に取り組む。

(5) 教師力の向上

- 児童一人ひとりのよさや可能性を伸ばす研究と修養を推進し、教師としての指導力の向上に努める。
- 指導上の課題、指導方針を全職員が共有、連携協力して解決に当たる体制を整備する。
- 日常の実践、研修の中で学びの生まれる組織づくりを進め、教員の同僚性、協働性を高め、校内研修の活性化を図り、目指す子ども像の実現を目指す。
- ◎1人1台端末等のICT環境を日常的かつ効果的に活用した授業の充実を校内研修の柱に据えて、ICT活用指導力の向上に努める。
- ◎一人一実践（公開授業研究）を通して、授業力・教師力の向上を図る。

(6) 学校・家庭（保護者）・地域との連携を図り、開かれた学校を目指す。

- ◎「家庭学習の手引き」の配付、活用により、保護者の理解を促し、連携協力しながら家庭学習の習慣化、自主学習の定着を推進する。
- ◎積極的な授業・学校公開、各種便りの発行により、情報を発信するとともに、教育活動の目的や成果、課題を共有しながら教育活動の改善に努める。
- 学校評価を実施し、教職員による自己評価及び保護者、学校評議員等、学校関係者評価の活用により、学校経営・運営の課題把握と改善に生かす。
- PTA活動の推進により、保護者との連携・協力を深め、教育環境の改善、充実を図る。
- 読み聞かせボランティア、学習支援ボランティア、地域安全ボランティア、福祉ボランティア等の協力を要請し、生活環境や学習環境を整備する。